資料

世界で最も美しい湾クラブ加盟湾としての取り組み

環境

「世界で最も美しい湾クラブ」は、フランスのヴァンヌ市に本部を置く非政府組織（NGO）です。1997年に湾を活用した観光振興や地球環境保護、観光資源の保全を目的に設立されました。

フランスのモルビアン湾やモンサンミッシェル湾、ベトナムのハロン湾など25の国・地域の45湾が加盟するグローバルな組織で（2020年8月末時点）、松島湾は2013年に日本で初めて加盟が認められました。松島湾は、『いにしえから人々を魅了し、今なおその美しい景観を保ち、代表的な名産であるかきなどの海の恵みを受けながら人々が生活を営む姿がある』と高い評価を受けました。

現在、松島湾のほか、日本国内では富山湾（富山県）、駿河湾（静岡県）、宮津湾・伊根湾（京都府）、九十九島湾（長崎県）が加盟しています。

同組織に加盟する湾は、それぞれが「湾の持続可能な発展のための環境保全」の取り組みを実施しています。

加盟湾の代表者たち

3,000m級の立山（たてやま）連峰を
海越しに望む富山湾

世界遺産の富士山と湾が絶景を織りなす駿河湾

日本三景の天橋立（あまのはしだて）の眺望が
広がる宮津湾

伝統的な舟屋（ふなや）が立ち並ぶ伊根湾

リアス海岸と208の島々が美しい九十九島湾

資料

松島湾清掃ツアー

美しい松島湾を次世代へ残すため、観光客と共に行う松島湾の環境保全活動として実施しています。参加者は松島海岸エリアや福浦島の清掃を行ったあと、松島温泉や歴史文化遺産などを楽しんでいただきます。松島湾を守る当事者としての認識を再認識しながら、松島の魅力を味わえる取り組みとなっています。

湾の景色も楽しみながら行う清掃活動

資料

松島“湾”ダーランド構想

松島湾を取り囲む3市3町（塩竈市、多賀城市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町）と宮城県が連携して観光振興に取り組むプロジェクトです。松島湾の魅力を伝えるPR活動や受入体制整備（多言語パンフレットの制作や広域観光案内板の整備）などの活動が行われています。

松島湾でつながる自治体連携の活動

資料

藻場再生への活動

藻場の役割

アマモやアカモクなどの海草／海藻が茂る場所は「藻場」と呼ばれ、小魚などが外敵から身を隠したり、餌場や産卵の場所になります。そのことから、藻場は多種多様な生物を育む「海のゆりかご」とも呼ばれています。

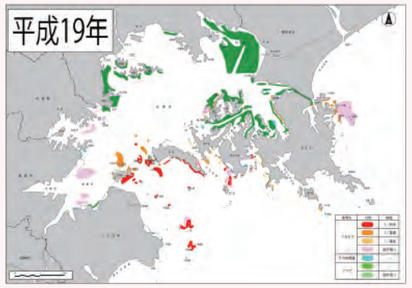
また、藻場には水質を改善する働きもあります。アマモは地上の植物と同様に光合成を行うことで、海水中の二酸化炭素を吸収するほか、赤潮の原因となる海水中の過剰なリンや窒素を栄養分として取り込むため、豊かな海を形成する起点となるのです。

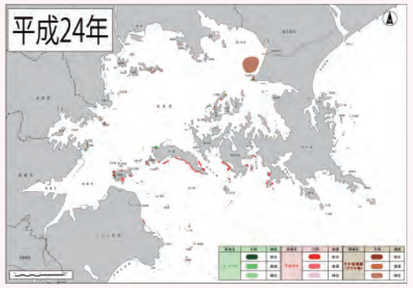
津波で壊滅的な被害を受けた松島湾の藻場

松島湾にも、かつては広大な藻場が広がっていました。しかし東日本大震災に伴う津波により、その99%が流失してしまいました。環境生態工学研究所（仙台市）では、地元漁業者などの協力により、松島湾の藻場分布状況のモニタリング調査を実施していますが、震災発生から10年目を迎えても30%程度の回復にとどまっていることが分かっています。原因の一つとしては、津波により湾の底質が藻場の生育に適さない泥地になってしまったことなどが挙げられ、藻場再生にはアマモやアカモクが生育しやすい底質に改善することが必要でした。

豊かな松島湾を未来へ継承するために

環境生態工学研究所では、松島町、地元漁業者、松島高等学校などと連携し、2018年から「松島湾藻場再生事業」を実施しています。主な内容として、藻場の生育に適した底質にするために、毎年8月と11月に福浦橋を渡る観光客に協力してもらい、橋の上から砂団子や石を投げ入れるイベントを開催しています。参加者はイベントを楽しみながら藻場の大切さを再認識し、松島湾の環境改善に協力できる仕組みになっています。





松島湾の藻場分布図。緑はアマモ、赤やオレンジはアカモクの分布を示す。
震災後は大幅に減少しているのが分かる

底質を砂地に変えるための砂団子

K

環境

松島高等学校観光科　交流プログラム「アマモ場再生活動体験」

みやぎ教育旅行等
コーディネート支援センター

☎　022-265-8722

松島高等学校観光科の交流プログラムの一環で、松島の観光名所福浦橋にて、観光科の生徒たちと松島湾のアマモ場再生活動を体験できます。一緒に福浦橋から砂団子を投げ入れ、アマモの生育に適した底質に変えていきましょう。

※学校事業によりご依頼をお受けできない場合がございます。
あらかじめご了承ください。